

文芸表現学科

教育目標（育成する人材像）

文芸表現における既存の方法論、既存の言語メディアの枠組みにとらわれることなく、言葉をつうじて他者と協働し、自己を表現する人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

修得する能力

探求力	知的好奇心に裏づけられた観察とテキストの読み込みによって、人間の在り方、世界の現在、歴史の展開を理解することができる
思考力	経験、観察、多彩な読書を契機として、言語化された考察を重ね、世界の普遍性と多様性を洞察することができる
発想・構想力	感覚や直感を大切にしつつも、探究と思考によって得られた知識と技能をもとにして、文芸作品あるいは言語メディアにつながるアイデアを導きだすことができる
表現力	豊かなボキャブラリーを用い、既存の文芸の方法論にさらに独創性を加味して、伝えるべき読者に的確に届く言語表現を生み出すことができる
行動力	人間は言葉によって理解し合うことができるという確信をもとに、文芸作品あるいは言語メディアを社会に提示し、他者との共通の問題を抽出して解決を図ることができる
継続力	自分なりの言語表現を獲得するために、そしてボキャブラリーを蓄積するために、読み続け、考え続け、書き続けることができる
コミュニケーション力	言葉を介して自分の思考や感情をよりの確に他者に伝え、また他者の思考や感情を理解することができる。言葉によって他者を説得でき、問題の解決を図ることができる

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

言葉を駆使して自己を表現し、他者とよりよく協働できる人材を育成するという学科の教育目標を達成するために編成されるカリキュラムは、次の6つのカテゴリにより構成されている。

- ①芸術文化———文芸創作の基盤を形成するために各芸術ジャンルへの理解を深める授業。
- ②表現技法———日本語表現の基礎を実践的に学ぶ授業。
- ③文芸———既存の作品や作家を通して創作の基礎となる思想や知識を学ぶ授業。
- ④編集———言葉による表現を広く伝達するための技法である編集技術を学ぶ授業。
- ⑤メディアデザイン———文芸創作や編集技術をデザインの視点から構想し、さまざまなメディアへと表現領域を展開することを学ぶ授業。
- ⑥創作演習———以上5つのカテゴリで学んだことを活かしながら、集大成となる文芸創作・メディア制作を達成する授業。

1年次はおもに①芸術文化と②表現技法のカテゴリの授業により、芸術や文化について広く学び、読み書きの基礎を身につける。2年次はおもに③文芸と④編集のカテゴリの授業により、文芸や編集に関する知識を深め、またさまざまな文章を書けるようになる。3年次は引き続き③文芸④編集を学びつつ、⑤メディアデザインの授業も加え、各自が専門分野を見つけて作品制作に励む。4年次はおもに⑥創作演習の授業に専念するとともに、社会に出て活躍する実践的な準備を行う。